

2017/07/17 東北社会学会 at 東北学院大学土樋キャンパス

誰がいじめを受けやすいのか －いじめ被害者の特徴－

眞田 英毅 (teruki.sanada.s8@dc.tohoku.ac.jp)

東北大学大学院文学研究科 人間科学専攻
行動科学専攻分野 修士課程1年

*本研究の二次分析にあたり、東京大学社会科学研究所 附属社会調査
データアーカイブ研究センター SSJデータアーカイブから
「東大社研・パネル調査」（東京大学社会科学研究所パネル調査プロジェクト）
の個票データの提供を受けました。

目次

1. 研究の背景
2. 先行研究とその限界
3. 仮説
4. データと変数
5. 結果
6. まとめ

目次

1. 研究の背景
2. 先行研究とその限界
3. 仮説
4. データと変数
5. 結果
6. まとめ

1. 研究の背景

掲載日:2017年04月29日, 面名:S106X0, 記事ID:K201704290A0S106X00002 (C)河北新報社

掲載日:2016年12月03日, 面名:EB0XX0, 記事ID:K201612030A0EB0XX00003 (C)河北新報社

仙台・中2男子が自殺

市教委など いじめ原因か きょう説明

仙台市立中2年の男子生徒が26日に自殺したことが28日、関係者の話で分かった。現時点で自殺の理由は不明だが、いじめが原因の可能性があるという。同校の一部の保護者から「いじめがあった」との指摘が出ている。

市教委と学校は29日に記者会見を開き、詳しい事実関係を説明する方針。学校は28日、全校集会を開いて他の生徒らに男子生徒が自殺したことを報告

したほか、5月1日夜に学校で保護者説明会を開く。

仙台市内の中学校では2014年9月、泉区の館中1年の男子生徒が当時12歳でいじめを苦に自殺。同区の南中山中でも16年2月、2年の男子生徒が当時14歳で自殺し、市教委の第三者委員会が今年3月、「いじめによる精神的苦痛が自殺の一因」とする答申をまとめた。

いじめ防止へ 研究成果共有

宮教大 盛岡で教員研修会



いじめ防止に関する研究などを報告した研修会

宮城教育大は2日、小中高の教員や教員志望の学生を対象に、いじめ防止に関する研修会を盛岡市のアイーナで開いた。全国から約200人が参加し、いじめ防止をテーマにした研究や実践事例を報告し合った。

同大が上越教育大（新潟県上越市）鳴門教育大（徳島県鳴門市）福岡教育大（福岡県宗像市）の国立教育大3校と連携して展開する「いじめ防止支援プロジェクト」の一環。

上越教育大の高橋知己准教授（教育学）が講演し、収集した210のいじめ事例の分析結果を発表。ほとんどのいじめの発端が「無視」であると指摘し、改善には「学校の対応が全生徒の目に見える形で行われる必要がある」と指摘した。

遠野市遠野西中の黒瀬大介教諭（41）は、生徒が朝のホームルームで互いを褒め合う同校の習慣を紹介。相

手を深く理解すれば、仲裁に入る使命感が生まれる」と狙いを語った。

参加した高校教員志望の岩手大2年野田祐太郎さん（19）は「昨年の矢巾町など全国でいじめの報道が増えていて胸が痛い。将来はいじめのこころ悪さを伝えら

れる教師になりたい」と話した。

同プロジェクトは昨年4月、いじめ防止に関する研究の情報交換や、いじめに対処できる教員研修プログラムの作成を目的に発足。研修会は各大学が年1回ずつ開催している。

1. 研究の背景

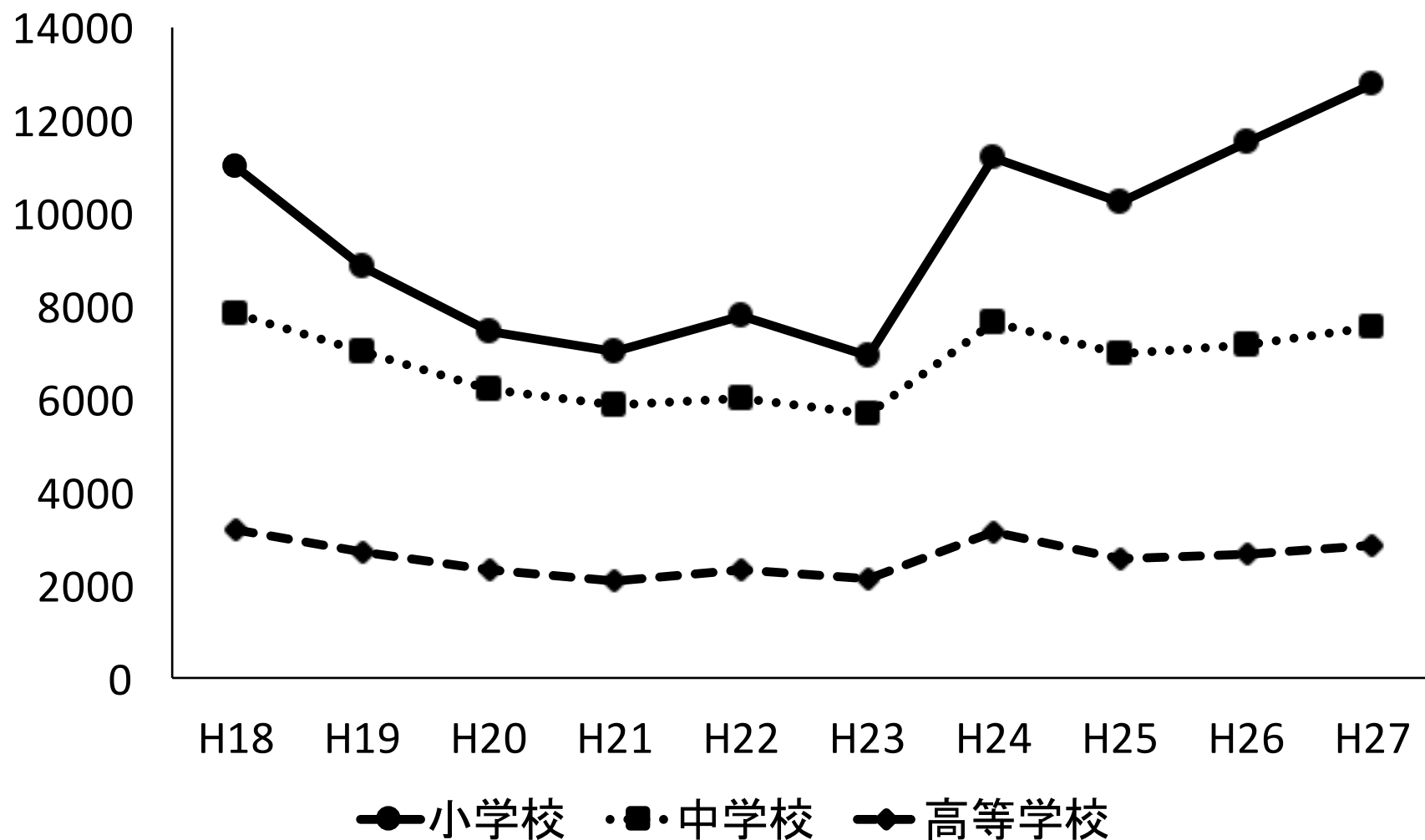


図1 いじめ認知件数の推移（文部科学省 2016）

1. 研究の背景

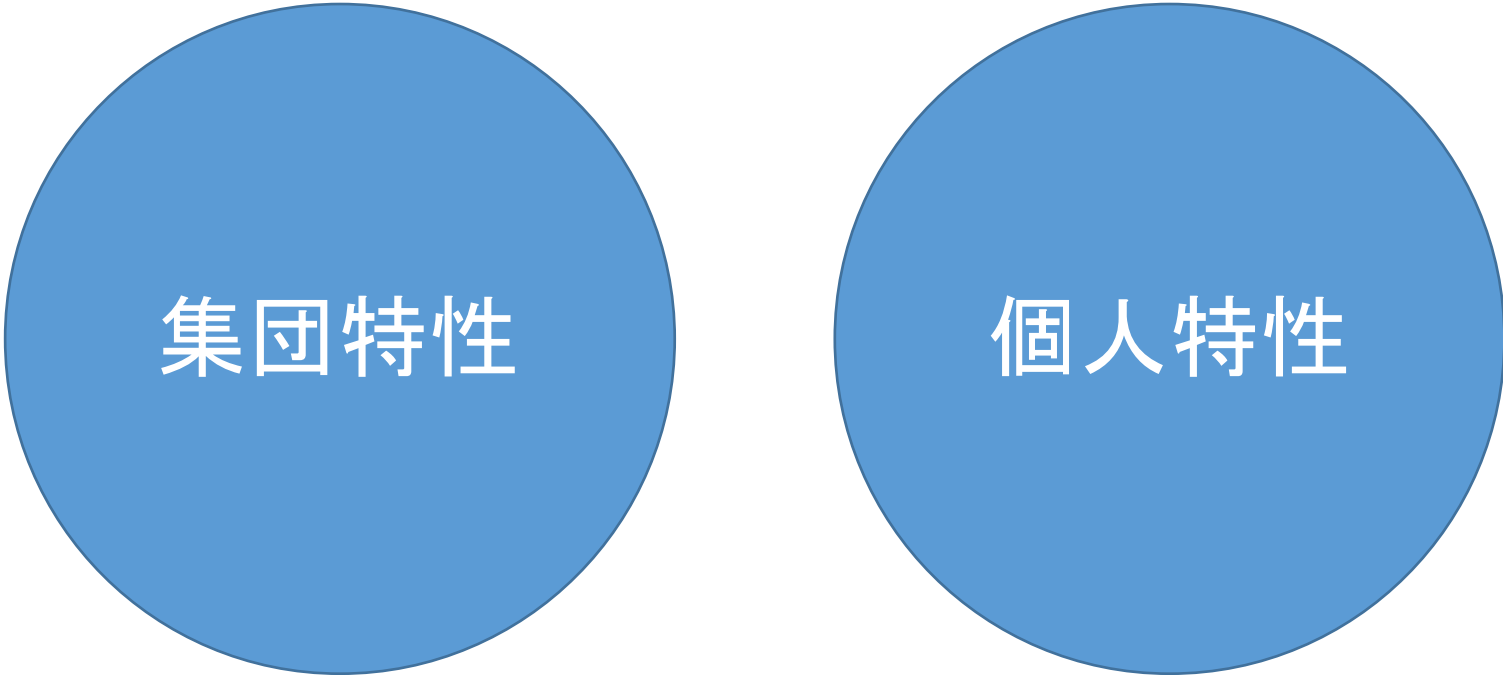
- 先行研究の多くは集団特性・個人特性は個人や集団（学級構造）といった学校の中での関係性に着目している
- 本研究では**いじめ被害者の特徴を探索的に明らかにする**ことで学級という枠組みではとらえきれないようないじめの実態を明らかにすることを目的とする

目次

1. 研究の背景
2. 先行研究とその限界
3. 仮説
4. データと変数
5. 結果
6. まとめ

2. 先行研究とその限界

いじめ研究は主にその要因を探る2つのグループに分けられる（森田ら 1986; 久保田 2013）



集団特性

個人特性

2. 先行研究とその限界

- 集団特性

- 学級規範が高いほどいじめは起きなくなる
(大西 2007)
- クラス内での結束はいじめ防止に効果あり
(水田・岡田・尾島 2016)

2. 先行研究とその限界

- 個人特性

- いじめは、加害者・被害者の性格に問題があるとする「性格原因仮説」は被害者にはあてはまらない（滝 1992）
- いじめ加害者はいじめた理由として「ムカつくから」「嫉妬」「なんとなく」といった感情をあげる（ref）

2. 先行研究とその限界

- 個人特性

- 「身体的弱さ」といった外見上の特徴からいじめ被害者の判別が可能(Olweus 1978; 大野・長谷川 2000)
- いじめたことのある子どもの半数が過去や現在にいじめられた経験をもつ(伊藤 2017)

2. 先行研究とその限界

- ここまであげられてきた集団特性・個人特性
学校の中での関係性に着目している

→ いじめは嫉妬や不満から生じるのであれば
家庭環境などがいじめの原因となっている
のではないだろうか？

⇒ RQ：いじめられやすい子どもとはどういう
社会経済的地位や環境にいるのか？

目次

1. 研究の背景
2. 先行研究とその限界
3. 仮説
4. データと変数
5. 結果
6. まとめ

3. 仮説

- 嫉妬によるいじめ

- いじめる原因は嫉妬などの悪性の感情が元になっている

- (阪井 1989; 正高 2007; 土居・渡部 2008)

- 嫉妬されやすいような家庭環境にいる子どもはいじめられやすい

3. 仮説

- 嫉妬されやすいような家庭環境
 - 家庭環境が良い
(階層が高い・所有財が多い・家庭の雰囲気が良い)
 - 成績が良い
(15歳時の成績)
- ⇒H1：家庭環境や成績が良い子どもほど、いじめを受けやすい

3. 仮説

- 相談できる人の数

いじめの発端は1対1の喧嘩（正高 2007）
－相談できるような人がいるか

- 兄妹がいれば喧嘩などの相談ができる
- 喧嘩の避けやすさ
- 親が片親であれば相談できない

⇒H2：一人っ子や片親の子どもはいじめられやすく、末っ子はいじめられにくい

3. 仮説

- 地域性

- いじめ容認率は地域によって差があり、都市部ほどいじめを容認する傾向にある（舞田 2013; 文部科学省 2016）

⇒ H3：いじめ容認率が高い地域に住む子どもはいじめられやすい

目次

1. 研究の背景
2. 先行研究とその限界
3. 仮説
- 4. データと変数**
5. 結果
6. まとめ

4. データと変数

- 分析方法
二項ロジスティック回帰分析
- データ
「働き方とライフスタイルの変化に関する
全国調査（JLPS）」
→15歳時の回顧データを豊富に含むwave1
15歳時の習慣を含むwave3
を使用

4. データと変数

- 従属変数
「自分が学校をいじめを受けた」 経験の有無
(wave1 Q11-10)
- 独立変数
年齢・性別・両親の学歴・地域いじめ容認率
15歳時の成績・家庭の雰囲気・家庭の豊かさ・
所有財・朝食習慣・歯を磨く習慣
15歳時に親が失業・離婚していたかどうか
一人っ子かどうか・末っ子かどうか

目次

1. 研究の背景
2. 先行研究とその限界
3. 仮説
4. データと変数
- 5. 分析結果**
6. まとめ

5. 分析結果

● 性別といじめ経験のクロス集計表

	いじめを受けた経験		度数
	ある	ない	
男性	408	1957	2365
	17.30%	82.70%	100.00%
女性	629	1806	2435
	25.80%	74.20%	100.00%
合計	1037	3763	4800
	21.60%	78.40%	100.00%

5. 分析結果（男性）

	モデル1			モデル2		
	B	S.E.	Exp(B)	B	S.E.	Exp(B)
切片	-1.89 **	0.62	0.15	0.15	0.89	1.16
年齢	0.01	0.01	1.01	0.01	0.01	1.01
父親大卒ダミー	0.39 *	0.17	1.48	0.39 *	0.18	1.47
母親大卒ダミー	-0.28	0.28	0.76	-0.18	0.29	0.83
親失業ダミー	0.75 ***	0.19	2.12	0.65 **	0.19	1.91
親離婚ダミー	0.51 †	0.27	1.66	0.33	0.28	1.39
一人っ子ダミー	0.20	0.28	1.22	0.13	0.29	1.14
末っ子ダミー	-0.22	0.16	0.80	-0.16	0.17	0.85
地域いじめ容認率	-0.04	0.05	0.96	-0.05	0.05	0.95
15歳時成績				-0.01	0.06	0.99
15歳時家庭の雰囲気				-0.40 ***	0.09	0.67
15歳時暮らし向き				0.06	0.10	1.06
15歳時朝食習慣				0.18 *	0.07	1.19
15歳時歯を磨く習慣				-0.29 ***	0.06	0.75
15歳時所有財				-0.03	0.03	0.97
-2LL	1173.69			1129.93		
Nagelkerke R2乗	0.03			0.09		

5. 分析結果（女性）

	モデル1			モデル2		
	B	S.E.	Exp(B)	B	S.E.	Exp(B)
切片	-0.97 *	0.48	0.38	0.09	0.75	1.09
年齢	-0.01	0.01	0.99	-0.01	0.01	0.99
父親大卒ダミー	0.09	0.14	1.09	0.11	0.15	1.12
母親大卒ダミー	-0.25	0.24	0.78	-0.22	0.24	0.81
親失業ダミー	0.57 ***	0.15	1.77	0.53 **	0.16	1.70
親離婚ダミー	0.41 †	0.22	1.50	0.13	0.24	1.14
一人っ子ダミー	0.10	0.22	1.10	0.09	0.22	1.09
末っ子ダミー	-0.14	0.13	0.87	-0.18	0.13	0.83
地域いじめ容認率	0.02	0.04	1.02	0.02	0.04	1.02
15歳時成績				-0.14 *	0.06	0.87
15歳時家庭の雰囲気				-0.27 ***	0.07	0.76
15歳時暮らし向き				0.06	0.08	1.07
15歳時朝食習慣				-0.02	0.07	0.98
15歳時歯を磨く習慣				-0.03	0.09	0.97
15歳時所有財				0.02	0.02	1.02
-2LL	1767.40			1745.03		
Nagelkerke R2乗	0.02			0.04		

5. 分析結果

- 家庭の雰囲気はいじめ経験に影響があるとともに、家庭の豊かさ、所有財は効果なし
男性のみ父親学歴が影響あり
⇒H1：一部支持
- 一人っ子ダミーや離婚ダミー、末っ子ダミーは影響なし
⇒H2：不支持
- 地域差は見られなかった
⇒H3：不支持

目次

1. 研究の背景
2. 先行研究とその限界
3. 仮説
4. データと変数
5. 結果
6. 考察と今後の課題

6. 考察と今後の課題

- 男女でいじめのメカニズムが異なる（男性）
 - 男性ではいじめられる子どもは二極化
 - 1 階層の低い子ども
親が失業している/家庭の雰囲気が悪い
歯を磨く習慣がない
 - 2 階層の高い子ども
父親が大卒/朝食を食べる習慣
- ⇒ 男性は①嫉妬と②優越感でいじめる

6. 考察と今後の課題

- 男女でいじめのメカニズムが異なる（女性）
 - 女性でいじめられやすいのは、成績が良くない子どもや家庭の雰囲気が悪い子ども、親が失業している子どもである
- ⇒ 女性は弱いもののいじめで他者よりも自分は優れていることを誇示？

6. 考察と今後の課題

今後の課題

- 今回のデータではいついじめられたのかがはっきりしていない
→出来事の時系列が明確でない
- 2つの相反するメカニズムが見られる
→2つのメカニズムの違いでいじめ経験が
その後の人生に与える影響は変わるのか？